

デジタル・フォレンジックを意識して 不正調査で困らない 社内データ管理の勘所

不調に終わるケースの原因は

第1章

デジタル・フォレンジックの 概要と動向

どのような流れで行われるかを確認

第2章

デジタル・フォレンジックの 全体像

デジタル・フォレンジックの観点から

第3章

不正調査を見据えた 社内データ管理の留意点

(株)Office Miyama
公認不正検査士

深山 治

企業不正や企業不祥事が頻発しているが、真相究明のための手法の1つとして、デジタル・フォレンジックが挙げられる。メールなどの社内データの証拠保全や調査・分析を行う手法であるが、昨今、データバックアップの不備やツールの多様化などのため、不調に終わるケースが出てきている。企業不正が発覚した場合に効果的な調査を行うためには、普段から社内データ管理を行うにあたって、デジタル・フォレンジックを意識することが肝要である。そこで、社内データ管理における実務上の留意点を解説していただいた。